

公表 事業所における自己評価総括表（訪問）

○事業所名	もみのきっず		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34世帯	(回答者数) 21世帯
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	29施設	(回答数) 26施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士・言語聴覚士・作業療法士など、専門的なスタッフが複数在籍しており、お子さんの困りごとに合わせて支援員の人選をしているところです。	発達特性や学習、ソーシャルスキルなどの専門的知識を高める研修に積極的に参加しています。また、自身のスキルを高めるために受講だけでなく、講師も引き受けているところです。複数名で訪問させていただき、多職種の視点で支援をさせていただくこともあります。	更にスタッフを育成して、スタッフ層を広げていきたいと思えます。
2	もみのき病院の発達外来や外来リハビリテーション部門と連携し、医療の視点も含めた幅広い視点で支援をしているところです。	外来リハビリテーションを実施しているスタッフと連携して支援をしています。または、外来リハビリテーションの担当職員が直接訪問支援員として園や学校に出向いて支援をすることもあります。	
3	発達外来の医師と連携し、毎週カンファレンスを実施しています。	集団での様子や生活の中の困り感など、病院では見えにくい部分の情報を意思と共有し、医師からは支援についての助言をいただき、学校や園での支援に反映できるように先生方にお伝えしています。	

	事業所の弱み（※）と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	丁寧に、専門的な支援をしようと思うと、どうしても対応できるお子さんの数が限られてしまいます。新規利用者の受け入れができない状況が続いていることが課題です。		訪問支援員を新たに育成したいと考えています。
2	より具体的に質の高い支援をするために、当事業所ではお子さんの特性や能力、生活や困りごとについて把握が難しい場合は、訪問に出向けないことがあります。もみのきっずの児童発達支援や放課後等デイサービスのご利用がないお子さんについては、上記の理由から訪問支援のご利用をお断りさせていただく場合があります。	お子さんについて把握をしないまま支援の手立てを考えることは難しく、根拠の乏しい支援をしても効果的ではありません。今後も、左記のような状況で、支援をしても十分お役に立てない可能性がある場合にはご依頼をお受けできないかもしれません。	
3			